

おかちまち たいとう

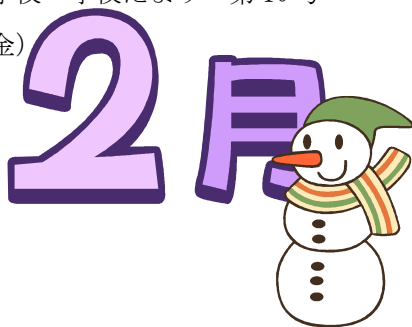
台東区立御徒町台東中学校 学校だより 第10号

令和8年2月20日(金)

校長 福沢 俊之

TEL 03 (3831) 3787

学校ホームページ



<https://www.taito.ed.jp/1320111>

↑ 更新中

人生の選択肢を広げる

校長 福沢 俊之

先月31日、「立志のつどい」を行いました。1年生の入学式、3年生の卒業式は、どの中学校で行われる儀式的行事ですが、「立志のつどい」は、2年生で行う台東区ならではの儀式的行事です。入学式も卒業式も、学校生活の節目にあたり、新しい生活への動機付けとする大切な行事ですが、私は、最終学年を目前にした2年生にとって、厳粛な雰囲気の中で、清新な気持ちで自らの将来を考える機会として意義があると思っています。

3年生も参列をした第二部の講演では、ソフトテニスのトッププレーヤーとして中学時代から大学、社会人時代まで活躍された松口友也氏を講師にお招きし、お話を伺いました。松口さんは現役を退かれた後も、全日本ナショナルチームU17のコーチを務められ、現在もスクールを運営しながら、神奈川県ソフトテニス連盟理事・強化委員を兼務し、選手の育成に尽力を注いでおられます。講演を終えた松口さんから、後日メールをいただきました。第一部の式典の様子を体育館入り口から見ていたという松口さんは、「凛とした雰囲気に身が引き締まる思いでした。私としてもとても良い経験をさせていただきました。」と書いてくださいました。2年生が式典に臨んでいる様子をそのように見ていただいていたとすれば、「立志のつどい」の目標の一つを達成していたといえるでしょう。

「凛」という字は、「空気が冷たく寒さが厳しい様子」を表しますが、その意味から派生して、引き締まった様子を表し、「背筋が通って姿勢がよい」という意味にもなります。さらに、表面的な意味にとどまらず、「芯が通っている」「動じない」「ぶれない」といった内面的な意味でも使われます。そして、さらに「品がある」「格式が高い」という意味に使われることもあります。こうした姿勢や態度は、誰からも認められるものであり、よい集団の中でこそ育まれるものであると考えます。

御徒町台東中学校では、卒業後、社会とのかかわりが大きく広がるみなさんが、どのような場においても快く受け入れてもらえる人になることを目指しています。その具体的な方針が「いつでも、どこでも、何度でも、あいさつをしよう。」「礼儀正しく振る舞おう。」「身だしなみを整えよう。」です。これは、本校が長い間大切にしてきたことです。地域でのボランティア活動、2年生で行う職業体験学習、1年生で行う伝統工芸体験学習では、いろいろな事業所、イベントに出向きます。それぞれの場では、小さい子どもから高齢の方まで、いろいろな年代のいろいろな考えを持った方々とかかわります。義務教育を終了した後の進路は、自分で決めていくことになっていきますが、どこでも誰にでも快く受け入れてもらえる人であることは、自分自身の選択肢を広げることに思えます。あらためて「あいさつ 礼儀 身だしなみ」への心がけを忘れず、学習に集中して取り組める環境を作っていきたいと思っています。今、しっかり学ぶことも、人生の選択肢を広げることになると考えています。

立志の言葉

将来について

2年1組

私はみんなのように将来が明確に決まっていなくて、ですが人の役に立てる人間になりたいと思っています。この世界は一人一人の働きによって成り立っています。例えば体や心を治すお医者様がいなかったら、私たちは今健康に生きられなかったと思うし警察官がいなかったら日本は今のように治安が良く平和に暮らせていなかったと思います。そこで今まで人に助けてもらった分、14歳になった今、今度は私が人の役に立ちたいです。そこで二つのことを特に頑張っていきたいです。まず一つめに勉強です。私は将来何になりたいかまだ決まっていますがこれからの人生を歩んでいく中で将来どうなりたいのか未来図がついてくると思います。そこで今からコツコツと勉強をし自分がなりたいと思ったことに全力で取り組める環境、選択肢を作っていきたいです。そしていろいろな職業についてもこれから学んでいき自分がなりたいと思えるような職業ともこれから出会いたいです。二つめに日々の生活でも周りをよく見て行動して、物事を多方面から見られるようにしていきたいです。人の役に立ちたいといっても困っている人に気づかなかつたら役に立つということができなくなってしまうし、多方面から物事を考えられなかったら人の役に立ちたいと思っていてもかえって相手をいやな気持ちにさせてしまいます。具体的にはこの行動にはどんなリスクがかかるか、この言葉を言ったらどうなるのかというように想像力を働かせて行きたいです。またいろいろなニュースをみて新しい情報をしりクリエイティブな発想を育てていきたいです。私はまだ将来について深く考えられていませんが明るい未来のために、これらのことを目標として学校生活を送っていきたくたいです。

将来の夢

2年2組

僕の将来の夢は、バレーボール選手です。この目標は、小学4年生でバレーボールを始めた時に立てたものです。なぜこの目標になったかということ、今まで関わってきた人や今後、関わっていく人に恩返しをしたいという強い気持ちをもっているからです。バレーボールを通じて、人を感動させたり、幸せにさせたいです。この目標を達成させるために、今やるべきことは、選択肢を広げることです。毎年、高校や大学は、強い学校が変わるので、どんな学校でも行けるように、日ごろから勉強を頑張りたいと思っています。そして上のカテゴリーに上がるにつれて、180センチも小柄になってくるので、どんなポジションでもこなせるよう、部活動の練習を頑張りたいです。二つめは、バレーボールという競技をもっと知って、今よりさらに楽しむことです。自分がもっと楽しむことができれば、他の人にも、面白さを具体的に伝えられると思うので、一石二鳥でいいと思ったからです。三つ目は、表現の方法を考える事です。バレーを通じて人を感動させるために、どのように自分やまわりの気持ちを表現できるかも関わらるだろうと思いました。自分は、今まで感動や幸せを、色々な人から受け取ってきたので、次は自分が渡す側になって、どんな気持ちで渡す側が取りこんでいるのかを知り、その中で、自分も幸せになりたいと思いました。この作文を書いていて、バレーボール選手になりたいという気持ちも強くなりましたが、バレーボールを通じて人を感動させたいという気持ちも強くなりました。

人を通じて

2年3組

私は将来、世界中の沢山のの人と出会いたたいです。そして沢山のの人の価値観や文化を知りたいです。私は去年の夏に一ヶ月アメリカにホームステイに行きました。そこで沢山のの人に出会うことができました。例えば、ホストやその家族、その学校の友達、教会の友達です。このような人と出会い日本にはない考え方を知って驚きました。まず宗教に多くの人が入っている点です。私のホストファミリーはキリスト教の方で礼拝に行ったり、聖書を読んで勉強したりしていました。また、家に十字架も置かれていました。その生活を見て大変ではないのかと感じました。また、個人の自由を尊重する点です。日本ではご飯を食べるときには栄養を考えてつくられているため「残さず食べなさい」と言われます。しかし、ホストファミリーには好きな物だけ食べればいいと言われました。その家族は口に合わない食べ物や嫌いな食べ物を残していました。日本とアメリカでは価値観が違うのだと思い知らされました。この経験は、まだ世界の価値観や文化の一部にしかすぎません。私は世界のもっと多くの価値観や文化を知りたいです。世界とは日本も含んでいます。日本にも私の知らない価値観や文化があるので、人を通じて理解したいです。そして、沢山のの人と出会う上で失礼な態度をとらないことが大切です。そのため、礼儀を正しくしたいです。例えば、挨拶です。毎日の学校生活や近所の人への挨拶を自分から積極的にしていきたいです。また、他の国の人と話すには英語も必要不可欠です。単語の勉強をしたり正しい発音の練習をしたり授業の話をしっかり聞いたりしたいです。このようにして、将来沢山のの人と出会い価値観や文化を理解し充実した人生を送りたいです。

夢に向けて

2年4組

私の将来の夢は、裁判官になることです。祖父が弁護士を目指していた話を聞き、興味を持ち始めたことがきっかけです。私が裁判官を志しているのは、自分の判断が社会を平和にすることにつながるかと考えるからです。私たちの国は、憲法を始め、法律の下に社会の秩序が保たれています。裁判官とは、民事事件や刑事事件において、それらの法を元に判断を下すことが主な仕事となっています。信頼される裁判を行い、公正な判断をすることにより、法の下に平等で平和な世界を実現させることに貢献できると思います。私は、長崎に行き、戦争について学んだ経験があるので、小さな争いを解決することが大きな戦争などを防ぐことにつながるかと考えていることも、裁判官を目指す理由です。裁判官になるためには、勉強に本気で挑む必要があります。大学から法科大学院の六年間勉強していても試験の難易度がとても高いです。レベルの高い大学を卒業することも志を達成させるために不可欠となります。これらを成し遂げるため、勉強に対する忍耐力をつけていくことが大切になります。私は一つのことを根気強く続けることに苦手意識があります。一度成績が落ちると、やる気はあるのに勉強をしなくなります。なぜなら、勉強と向き合うことが、逆に自分自身を打ちのめすように感じてしまうからです。しかし、このままでは裁判官になることが難しくなります。辛くても自分と向き合い、続けることが大きな力となっていきます。目の前の事から逃げずに本気で向き合うことを大切にします。毎日努力をし、裁判官になれるよう全力を尽くします。そして、夢を実現できたら、争いや事件を解決していき、社会平和を実現できるような裁判官を目指したいです。